

B-36 ミシン縫製と上糸張力

— 厚さ変化 —

日本女大家政 ○ 芦沢昌子 樋口ゆき子

目的 縫製は見た目に美しく、かつ丈夫で、身体の動きに伴う様々な力に耐え、又くり返し行なわれる洗濯にも耐えなければならない。縫製を問題にすると縫目の安定性が問題になる。つまり、ひまつれや糸切れがなく、縫目割れがなく、かつ糸のしまりも良い状態が理想となる。この状態を考えるのに上糸張力を測る事が行なわれている。今回は上糸張力と糸、布、ミシンの回転数の関係を実験し、私共がしばしば経験する、ギャザーやいせこみを縫合する際、縫目のしまりが甘かったり、ひまつれが起きたりする事を、上糸張力と縫目の引きしめ率から考えてみたいと思う。

方法 家庭用ミシンにテンションメーターを天秤と針の間の上糸経路上にとりつけ、縫糸、布の重ね枚数、方向、ギャザーのある場合の上糸張力を測定し、かつその際の縫目の引きしめ率を出した。

結果 縫糸、重ね枚数は分散分析の結果有意差を示した。ギャザー部分を縫う時は重ね枚数の違いによる上糸張力の増加よりもはるかに大きな上糸張力の変動を記録し、特にその傾向は剛軟度の大きいものにみられる。